

業 務 報 告

2015年岡山県における感染症の患者発生状況について

(岡山県感染症情報センター業務報告 2015.1～2015.12)

1 はじめに

感染症発生動向調査事業では、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(平成10年法律第104号。以下「感染症法」という。)及び「感染症発生動向調査事業実施要綱」(平成11年3月19日付け健医発第458号。以下「要綱」という。)に基づいて、医師等医療関係者の協力のもと、感染症の発生状況、患者情報及び病原体情報などを収集・分析し、その結果を国民や医療関係者へ提供公開していくこととされている。

岡山県では、昭和50年9月から患者発生情報を収集還元していたが、平成23年4月に患者情報と病原体情報の収集・分析・提供の一体化を図るため、要綱に基づく基幹地方感染症情報センターとなる岡山県感染症情報センターを、岡山県環境保健センター内に設置した。岡山県感染症情報センターでは、医師等医療関係者の協力のもと、県内(岡山市を除く。)の保健所を介して患者情報及び病原体情報を収集し、国立感染症研究所感染症疫学センター(中央感染症情報センター)へ報告している。また、感染症の予防及びまん延防止のため、岡山市及び倉敷市と連携し、感染症情報の収集・分析を行い、これらの情報をホームページや電子メールなどを用いて公開している。

2015年(平成27年)、岡山県における感染症の患者発生状況について、岡山県感染症情報センター業務報告として総合的に取りまとめたので報告する。

2 届出対象感染症及び調査方法

2.1 届出対象感染症

対象となる感染症は、感染症法により定められており、一類～五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症に分類されている。一類～四類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症は全数把握対象に、五類感染症は、全数把握対象と定点把握対象に区分されている(表1参照)。なお、平成27年1月21日に感染症法施行令及び施行規則の改正により、「中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 MARS コロナウイルスであるものに限る。)],「鳥インフルエンザ(H7N9)」が全数把握対象の指定感染症から二類感染症に変更となった。

1) 全数把握感染症

全数把握感染症とは、発生数が希少、あるいは周囲への感染拡大防止を図るため、発生した全ての患者を把握することが必要な感染症で、医師は該当する患者を診断したときには、最寄りの保健所へ届出なくてはならない。

2) 定点把握感染症

定点把握感染症とは、発生動向の把握が必要な感染症のうち、患者数が多数で、その全てを把握する必要がないもので、指定された医療機関(定点)から発生状況が週単位又は月単位で届出されることになっている。なお、定点医療機関は、要綱の基準に基づき選定されており、岡山県の場合、定点医療機関数は、小児科定点54、内科定点30、眼科定点12、性感染症定点17、基幹定点5が設定され、小児科定点と内科定点をあわせて、インフルエンザ定点84となっている。

2.2 調査方法

要綱に従って各関係機関から報告された患者情報を、感染症サーベイランスシステム(以下「システム」という。)により、国立感染症研究所感染症疫学センターへ報告するとともに、岡山県内の発生状況を解析した。定点把握感染症については、1週間に1つの定点医療機関からどのくらいの報告があったかを表す「定点あたり報告数」の数値により、他の地域での流行状況や過去のデータとの比較を行った。また、週単位又は月単位の定点あたり報告数を累積した数値である「定点あたり累積報告数」で、流行の規模を比較した。

2.3 調査期間

全数把握感染症(表1-1)及び月報告の定点把握感染症(表1-2-②)の調査期間は、2015年1月1日～12月31日、週報告の定点把握感染症(表1-2-①)については、53週(2014年12月29日～2015年1月3日)とした。なお、インフルエンザについては、流行時期にあわせて、第36週～翌年第35週(2014年9月1日～2015年8月30日)とした。また、いずれの感染症も診断日を基準とした。

3 結果

3.1 全数把握感染症の届出状況(表2, 3参照)

3.1.1 一類感染症

一類感染症の届出はなかった。

3.1.2 二類感染症

二類感染症は、結核 371 例の届出があり、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る。）、中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。）、鳥インフルエンザ (H5N1)、鳥インフルエンザ (H7N9) の届出はなかった。

結核の病型は、患者 238 例、無症状病原体保有者 127 例、疑似症患者 5 例、死亡者 1 例で、無症状病原体保有者 127 例のうち 36 例が医療・介護従事者（医師、看護婦、介護士など）であった。年齢階級別では、80 歳代（27.8%）が最も多く、70 歳代（19.1%）、60 歳代（11.6%）の順であった（図 1）。

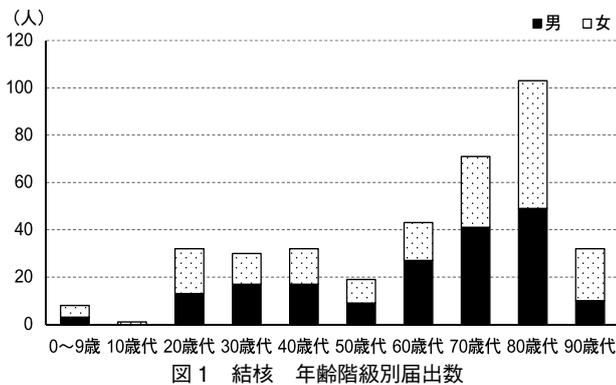


図 1 結核 年齢階級別届出数

3.1.3 三類感染症

三類感染症は、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症の届出があり、コレラ、腸チフス、パラチフスの届出はなかった。

i) 細菌性赤痢

細菌性赤痢は 2 例の届出があり、推定感染地域は国内 1 例（県内）、国外 1 例（インドネシア）で、菌型は全て *Shigella sonnei* であった。

ii) 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は 63 例の届出があり、うち 12 例は養護老人ホームにおいて発生した O157 による集団感染事例であった。病型は、患者 43 例（うち溶血性尿毒症症候群 4 例）、無症状病原体保有者 20 例であった。年齢階級別では、0～9 歳（27.0%）、次いで 10 歳代（15.9%）、30 歳代（11.1%）の順に多かった。月別発生状況は、夏～秋にかけて多くの届出があった（図 2）。血清群別の内訳は、図 3 のとおりであった。

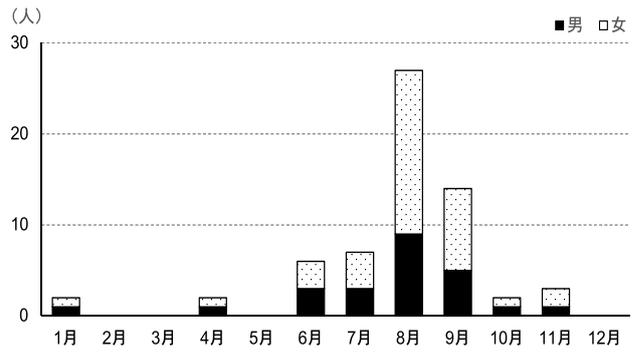


図 2 腸管出血性大腸菌感染症 月別届出数

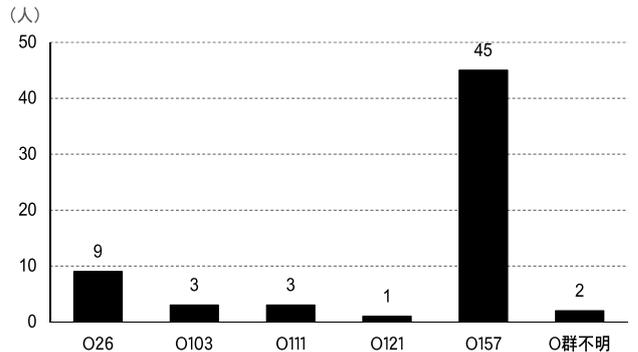


図 3 腸管出血性大腸菌感染症 O血清群別発生状況

3.1.4 四類感染症

四類感染症は、E 型肝炎、A 型肝炎、オウム病、つつが虫病、デング熱、日本紅斑熱、マラリア、レジオネラ症の届出があり、その他の四類感染症の届出はなかった。

i) E 型肝炎

E 型肝炎は 4 例の届出があり、推定感染地域は、全て国内（県内 1 例、都道府県不明 3 例）であった。

ii) A 型肝炎

A 型肝炎は 9 例の届出があり、推定感染地域は、国内 8 例（県内 5 例、県外 1 例、都道府県不明 2 例）、国外 1 例（中華人民共和国）であった。

iii) オウム病

オウム病は 2 月に 1 例の届出があり、推定感染地域は、国内（県内）で、推定感染経路は不明であった。

iv) つつが虫病

つつが虫病は 12 月に 1 例の届出があり、推定感染地域は国内（県内）であった。

v) デング熱

デング熱は 12 月に 2 例の届出があり、推定感染地域は、全て国外（インドネシア、フィリピン）であった。

vi) 日本紅斑熱

日本紅斑熱は 3 例の届出があり、月別発生状況は、9 月、11 月、12 月に各 1 例の発生であった。

vii) マラリア

マラリアは 2 例の届出があり、病型は熱帯熱マラリア 1 例、三日熱マラリア 1 例で、推定感染地域は全て

国外（ガーナ，パキスタン）であった。

viii) レジオネラ症

レジオネラ症は27例の届出があり，病型は肺炎型26例，ポンティアック熱型1例であった。年齢階級別では，60歳代（25.9%）が最も多く，50歳代（18.5%），70歳代・80歳代（各14.8%）の順となっており，患者は全て30歳以上であった（図4）。推定感染経路（重複あり）は，水系感染3例，塵埃感染1例，不明24例であった。

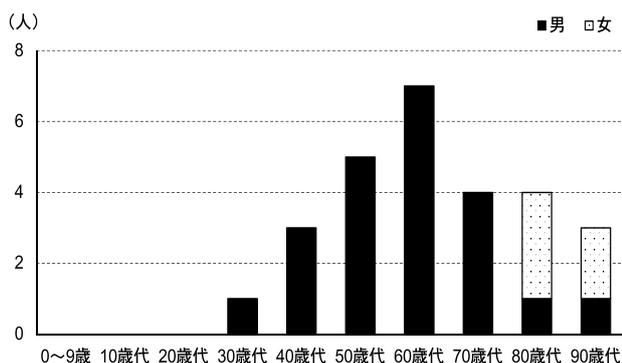


図4 レジオネラ症 年齢階級別届出数

3.1.5 五類感染症（全数把握対象）

五類感染症では，14の感染症で届出があった。主な感染症については，以下のとおりである。

i) アメーバ赤痢

アメーバ赤痢は17例の届出があり，腸管アメーバ症16例，腸管外アメーバ症1例であった。推定感染地域は国内15例（県内7例，都道府県不明8例），国外2例（トルコ，マレーシア・インドネシア）で，推定感染経路は性的接触（異性間）2例，不明15例であった。

ii) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は34例の届出があった。年齢階級別では，80歳以上（61.8%），60歳代・70歳代（各17.6%）の順となっており，患者のほとんどが60歳以上の高齢者であった（図5）。

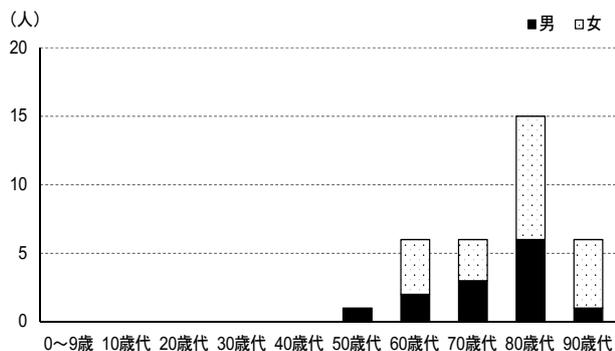


図5 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 年齢階級別届出数

iii) 急性脳炎

急性脳炎は14例の届出があり，そのうち病原体が検出されたのは，ヒトヘルペスウイルス3例，インフルエンザウイルス1例であり，10例は病原体不明であった。

iv) 後天性免疫不全症候群

後天性免疫不全症候群は21例の届出があり，過去10年間で最も多かった2010年（22例）に次いで患者発生が多くなった（図6）。病型はAIDS4例，無症候性キャリア17例であった。性別は全て男性で，年齢階級別では，20歳代（33.3%）が最も多く，50歳代（28.6%），40歳代（23.8%）の順となった（図7）。推定感染地域は，国内18例，国外1例（トルコ），国内又は国外2例であった。推定感染経路は性行為感染17例（異性間9例，同性間6例，異性間又は同性間2例），不明4例であった。

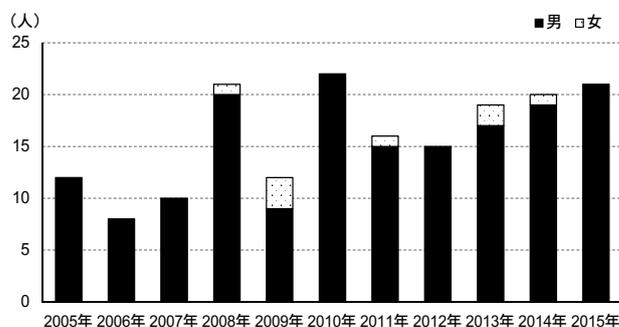


図6 後天性免疫不全症候群 年次別届出数

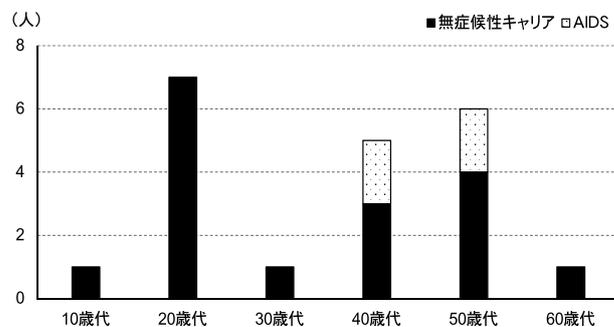


図7 後天性免疫不全症候群 年齢階級別届出数

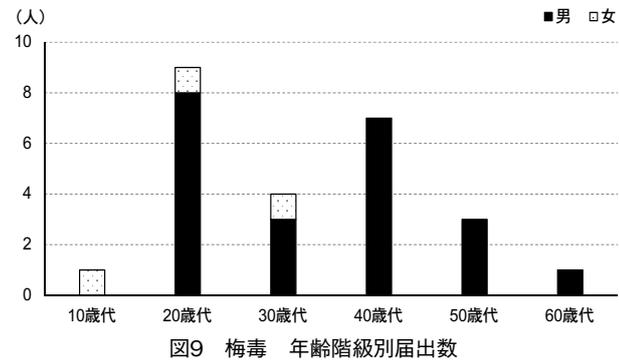
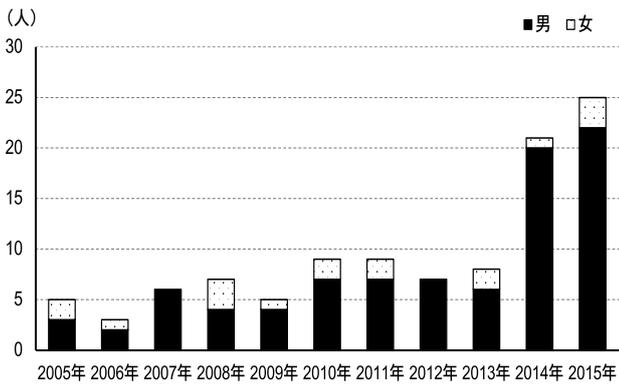
v) 侵襲性肺炎球菌感染症

侵襲性肺炎球菌感染症は35例の届出があり，ワクチン接種歴別で見ると，接種歴あり8例，なし17例，不明10例であった。

vi) 梅毒

梅毒は25例の届出があり，過去10年間で最も多くなった（図8）。類型は，早期顕症梅毒Ⅰ期5例，早期顕症梅毒Ⅱ期12例，無症状病原体保有者8例であった。性別は，男性22例，女性3例で，年齢階級別では，20歳代（36.0%）が最も多く，40歳代（28.0%），30歳代（16.0%）の順となった（図9）。推定感染地域は

全て国内(県内11例, 県外13例, 都道府県不明1例)で、推定感染経路は、性行為感染24例, 不明1例であった。



vii) その他の五類感染症

その他の五類感染症は、ウイルス性肝炎(E・Aを除く)9例, クリプトスポリジウム症1例, クロイツフェルト・ヤコブ病2例, 劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例, ジアルジア症4例, 侵襲性インフルエンザ菌感染症2例, 水痘(入院例)6例, 播種性クリプトコックス症1例の届出があった。

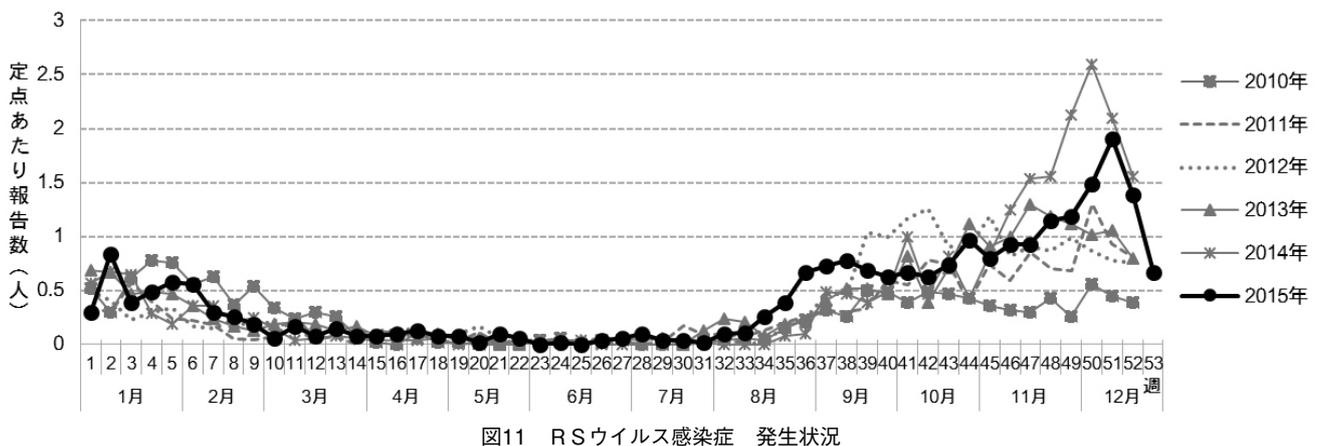
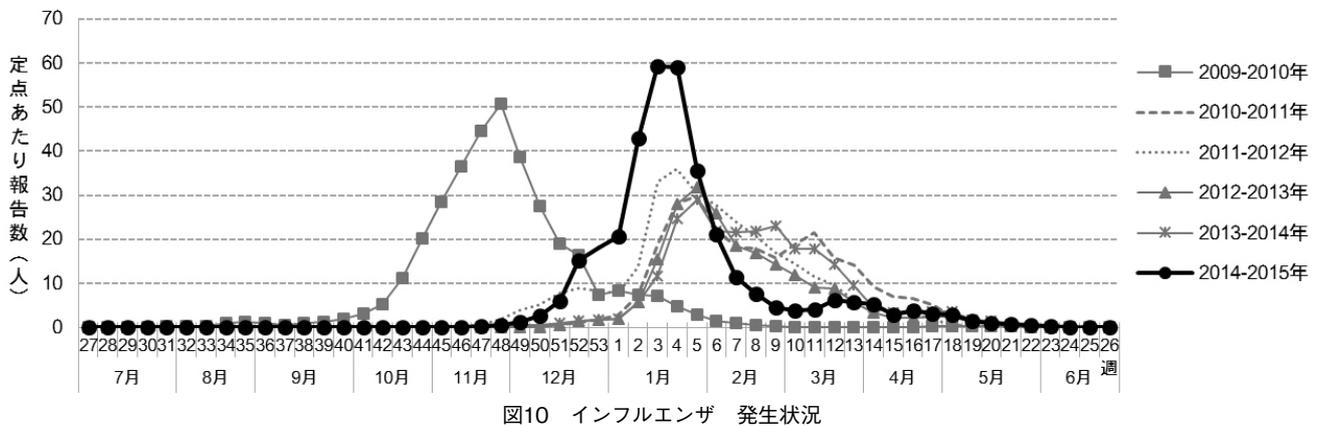
3.2 定点把握感染症(五類感染症)の届出状況

3.2.1 小児科・内科定点における週報告の感染症(表4参照)

小児科・内科定点における週報告の感染症のうち、主な感染症については、以下のとおりである。

i) インフルエンザ(2014/2015年シーズン流行のまとめ)

インフルエンザは、2014年第36週(9/1~9/7)にシーズン初めての患者が報告され、第49週(12/1~12/7)には定点あたり報告数1.24人となり、注意報発令基準の1.00人を上回った。以降、急速に流行は拡大し、2015年第2週(1/5~1/11)に定点あたり42.99人となり、警報発令基準の30.00人を上回った。そして第3週(1/12~1/18)に定点あたり59.21人、第4週(1/19~1/25)に58.98人となり、過去5年間で最も高いピークを迎えた。その後急速に減少し、



第8週(2/16～2/22), 第9週(2/23～3/1)と2週連続して定点あたり10.00人を下回ったため, 岡山県では警報から注意報に切り替えた。以降, ほぼ横ばい状態から徐々に減少し, 第20週(5/11～5/17), 第21週(5/18～5/24)に2週連続して定点あたり1.00人を下回り, インフルエンザの流行は終息した。

2014/2015年シーズン(2014年9月1日～2015年5月31日), 岡山県環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルス94株であった。その内訳は, AH3型が87株(93%)と最も多く, 次いでB型(山形系統)が7株(7%)であった。2013/2014年シーズンは, AH1pdm09型が最も多く検出されたが, 今シーズンは, 2シーズンぶりにAH3型が主流であった。

ii) RSウイルス感染症

RSウイルス感染症は, 定点あたり累積報告数が23.31人であり, 前年(22.42人)より増加した。前年12月の患者が多い状態から2015年に入り, 増減を繰り返しながら減少し, 第10週(3/2～3/8)からは散発的であった。第32週(8/3～8/9)から徐々に増加しはじめ, 第51週(12/14～12/20)には定点あたり1.91人と過去5年間で2番目に多くなった。

iii) 咽頭結膜熱

咽頭結膜熱は, 定点あたり累積報告数が10.76人であり, 前年(21.99人)より大幅に減少した。

iv) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は, 定点あたり累積報告数が59.39人であり, 前年(49.27人)より増加した。第2週(1/5～1/11)に1.91人と急増し, 過去5年間の同時期と比較して最も多くなり, その後も増減を繰り返しながら患者が多い状態で推移した。

v) 手足口病

手足口病は, 定点あたり累積報告数が89.26人であり, 2011年(113.59人)に次いで2番目に多い年であった。4月下旬から徐々に増加し, 第27週(6/29～7/5)には定点あたり5.39人となり, 大きな流行を示す基準となる5.00人を上回った。第28週(7/6～7/12)には減少したものの第29週(7/13～7/19)に再び増加し, 流行のピークを迎え, その後は増減を繰り返しながら減少した。

3.2.2 眼科定点における週報告の感染症(表4参照)

i) 急性出血性結膜炎

急性出血性結膜炎は, 定点あたり累積報告数が0.58

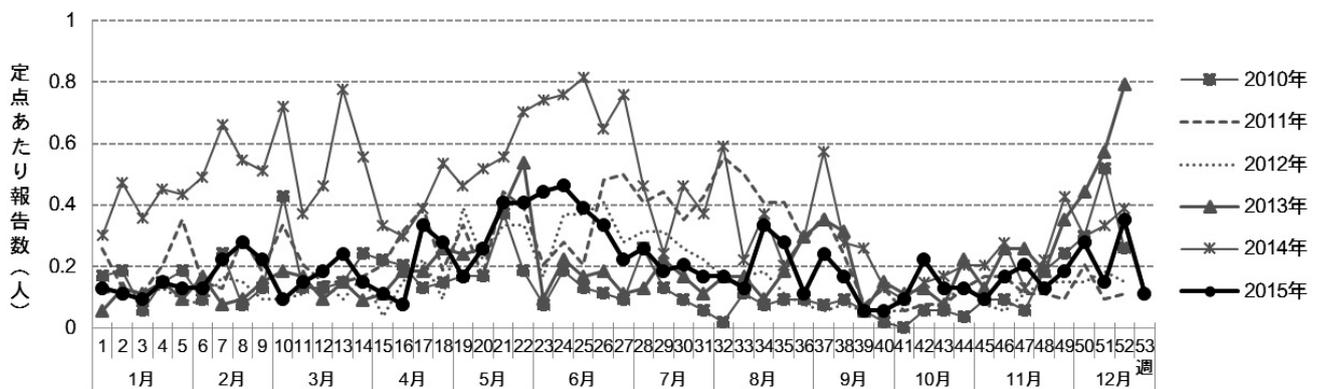


図12 咽頭結膜熱 発生状況

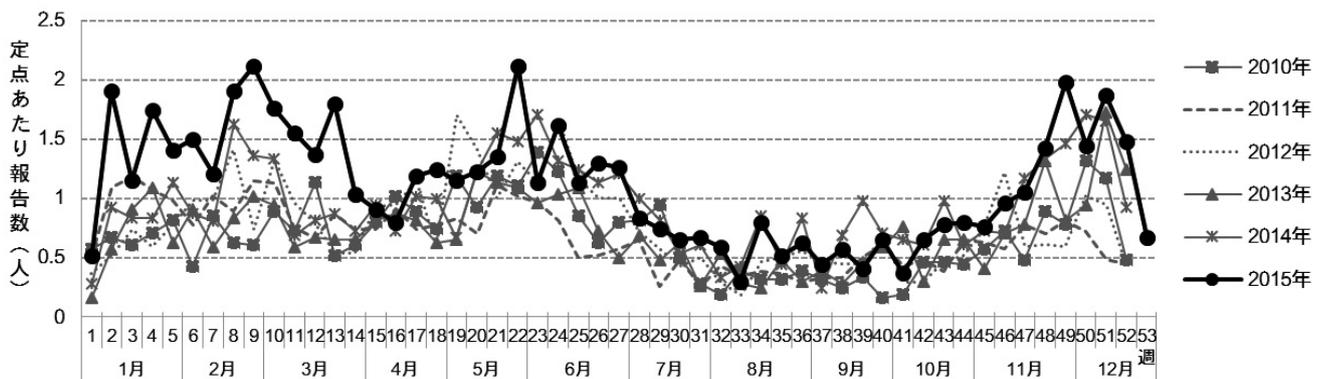


図13 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 発生状況

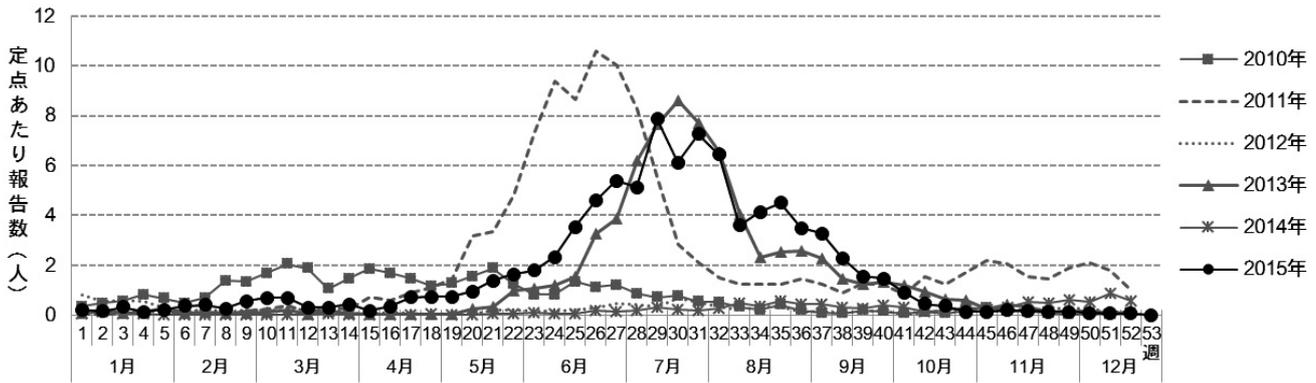


図14 手足口病 発生状況

人であり、前年（1.08人）より減少した。

ii) 流行性角結膜炎

流行性角結膜炎は、定点あたり累積報告数が24.75人であり、前年（24.00人）とほぼ同数であった。

3.2.3 基幹定点における週報告の感染症（表4参照）

i) 細菌性髄膜炎

細菌性髄膜炎は、定点あたり累積報告数が0.40人であり、前年（2.00人）より減少した。

ii) 無菌性髄膜炎

無菌性髄膜炎は、定点あたり累積報告数が1.80人であり、前年（2.00人）より減少した。

iii) マイコプラズマ肺炎

マイコプラズマ肺炎は、定点あたり累積報告数が5.40人であり、前年（3.60人）より増加した。

iv) クラミジア肺炎（オウム病を除く）

クラミジア肺炎（オウム病を除く）は、定点あたり累積報告数が0.40人であり、前年（1.60人）より減少した。

v) 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）

感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）は、定点あたり累積報告数が8.40人であり、前年（7.60人）より増加した。

3.2.4 性感染症定点における月報告の感染症（表5、6参照）

性感染症（性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス

感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症）を年齢階級別でみると、20歳～30歳代が71%を占めており、若年層に多い傾向がみられた（図15）。

i) 性器クラミジア感染症

性器クラミジア感染症は、定点あたり累積報告数が22.18人であり、前年（21.29人）より増加した（図16）。男女別割合では男性24.1%、女性75.9%と女性が多かった（図17）。

ii) 性器ヘルペスウイルス感染症

性器ヘルペスウイルス感染症は、定点あたり累積報告数が4.65人であり、前年（5.65人）より減少した（図16）。男女別割合では男性2.5%、女性97.5%と女性が圧倒的に多かった（図17）。

iii) 尖圭コンジローマ感染症

尖圭コンジローマ感染症は、定点あたり累積報告数が4.76人であり、前年（4.82人）とほぼ同数であった（図16）。男女別割合では男性71.6%、女性28.4%と男性が多く、また男性の報告数が4年連続で増加した（図17）。

iv) 淋菌感染症

淋菌感染症は、定点あたり累積報告数が6.00人であり、前年（8.06人）とほぼ同数であった（図16）。男女別割合では、男性52.0%、女性48.0%で、ほぼ同数であった（図17）。

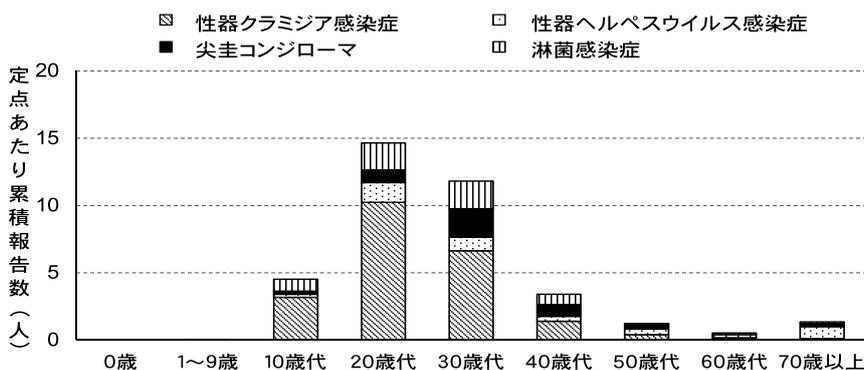


図15 性感染症 年齢階級別発生状況

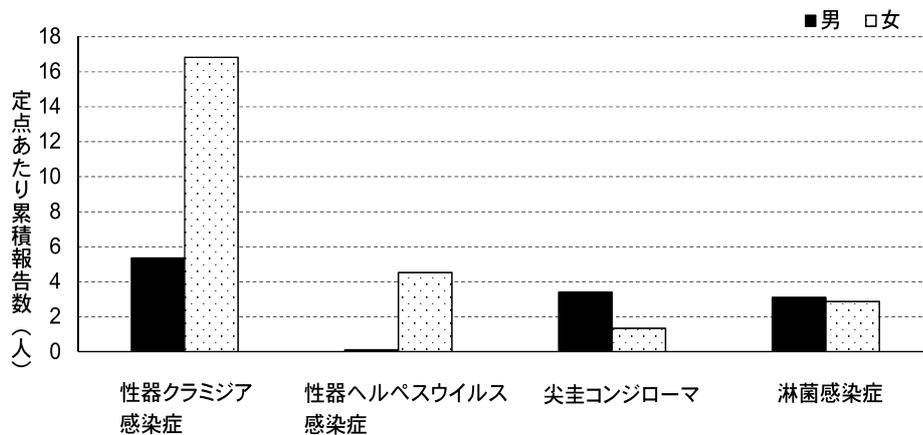
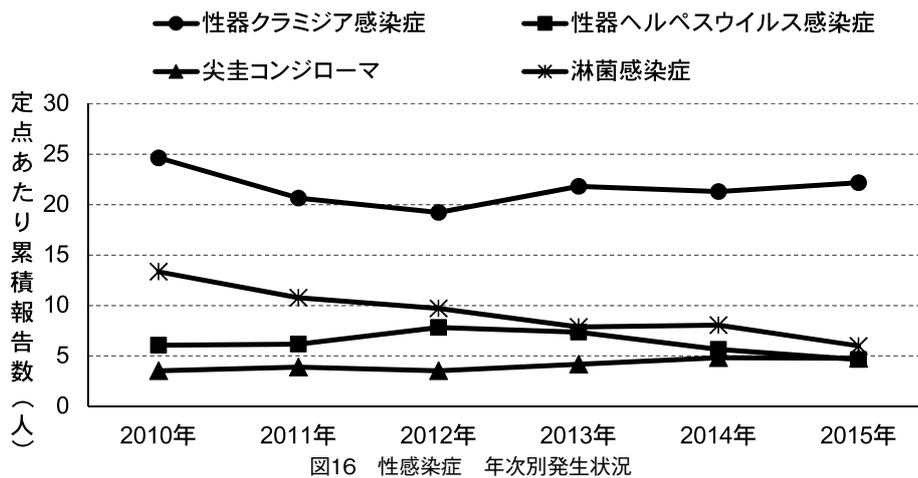


図17 性感染症 男女別発生状況

3.2.5 基幹定点における月報告の感染症 (表 5, 7 参照)

i) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症は、定点あたり累積報告数が26.20人であり、前年(37.00人)より減少した。年齢別では、70歳以上の報告が最も多かった。

ii) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症は、定点あたり累積報告数が0.20人であり、報告がなかった前年よりわずかに増加した。

iii) 薬剤耐性緑膿菌感染症

薬剤耐性緑膿菌感染症は、定点あたり累積報告数は1.40人であり、報告がなかった前年よりわずかに増加した。年齢別では、すべて70歳以上の高齢者であった。

4 まとめ

全数把握感染症では、結核の届出数は、2015年が371例であり、前年(387例)よりわずかに減少した。年齢別では、70歳以上の高齢者が多く報告されている。2014年8月には約70年ぶりにデング熱の国内感染患者発生が確認されたが、2015年に届出があった2例については、すべ

て輸入症例であった。梅毒の届出数は25例で、前年(21例)より増加し、過去10年間で最も多くなった。全国の梅毒患者の報告数も2010年以降、増加傾向にあり、岡山県でも今後の発生動向に注意が必要である。

定点把握感染症に関して、2014/2015年シーズンのインフルエンザは、流行期間が25週間と前年とほぼ同様であったが、新型インフルエンザが猛威をふるった2009/2010年シーズンに次いで、患者発生の多いシーズンであった。過去10年間で最も高いピークを迎えた後、急速に減少し、その後ほぼ横ばいで、緩やかな減少であった。手足口病は、4月下旬から定点あたり報告数が徐々に増加し始め、2011年に次いで定点あたり累積報告数が多かった。

今後も引き続き、県内における患者情報の収集・分析に努め、全国の感染症発生動向にも注意を払いながら、県民の健康を守るための一助となるよう感染症情報を広く発信していきたい。

表1 感染症法に基づく届出対象感染症 (2015年)

1. 全数把握感染症：全ての医師が、全ての患者発生について届出を行う感染症

<p>【 一類感染症 】 直ちに届出</p> <p>(1) エボラ出血熱 (2) クリア・コンゴ出血熱 (3) 痘そう (4) 南米出血熱 (5) ペスト (6) マールブルグ病 (7) ラッサ熱</p>
<p>【 二類感染症 】 直ちに届出</p> <p>(1) 急性灰白髄炎 (2) 結核 (3) ジフテリア (4) 重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る)</p> <p>(5) 鳥インフルエンザ(H5N1) (6) 鳥インフルエンザ(H7N9) * (7) 中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る) *</p>
<p>【 三類感染症 】 直ちに届出</p> <p>(1) コレラ (2) 細菌性赤痢 (3) 腸管出血性大腸菌感染症 (4) 腸チフス (5) パラチフス</p>
<p>【 四類感染症 】 直ちに届出</p> <p>(1) E 型肝炎 (2) ウエストナイル熱 (3) A 型肝炎 (4) エキノコックス症 (5) 黄熱 (6) オウム病 (7) オムスク出血熱 (8) 回帰熱 (9) キヤサヌル森林病 (10) Q 熱 (11) 狂犬病 (12) コクシジオイデス症 (13) サル痘 (14) 重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属 SFTS ウイルスであるものに限る) (15) 腎症候性出血熱 (16) 西部ウマ脳炎 (17) ダニ媒介脳炎 (18) 炭疽 (19) チングニア熱 (20) つつが虫病 (21) デング熱 (22) 東部ウマ脳炎 (23) 鳥インフルエンザ(H5N1 及び H7N9 を除く) (24) ニパウイルス感染症 (25) 日本紅斑熱 (26) 日本脳炎 (27) ハンタウイルス肺症候群 (28) B ウイルス病 (29) 鼻疽 (30) プルセラ症 (31) ベネズエラウマ脳炎 (32) ヘンドラウイルス感染症 (33) 発しんチフス (34) ボツリヌス症 (35) マラリア (36) 野兔病 (37) ライム病 (38) リッサウイルス感染症 (39) リフトバレー熱 (40) 類鼻疽 (41) レジオネラ症 (42) レプトスピラ症 (43) ロッキー山紅斑熱</p>
<p>【 五類感染症の一部 】 7 日以内に届出(麻しん・風しんはできるだけ早く)</p> <p>(1) アメーバ赤痢 (2) ウイルス性肝炎(E 型肝炎及び A 型肝炎を除く) (3) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 (4) 急性脳炎(ウエストナイル脳炎, 西部ウマ脳炎, ダニ媒介脳炎, 東部ウマ脳炎, 日本脳炎, ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く) (5) クリプトスポリジウム症 (6) クロイツフェルト・ヤコブ病 (7) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (8) 後天性免疫不全症候群 (9) ジアルジア症 (10) 侵襲性インフルエンザ菌感染症 (11) 侵襲性髄膜炎菌感染症 (12) 侵襲性肺炎球菌感染症 (12) 水痘(入院例に限る) (13) 先天性風しん症候群 (14) 梅毒 (15) 播種性クリプトコックス症 (16) 破傷風 (17) バイコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (18) バンコマイシン耐性腸球菌感染症 (19) 風しん (20) 麻しん (21) 薬剤耐性アシネトミクター感染症</p>
<p>【 指定感染症 】 直ちに届出</p> <p>(1) 鳥インフルエンザ(H7N9) ** (2) 中東呼吸器症候群(病原体がベータウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る) **</p>

2. 定点把握感染症 (五類感染症)：指定した医療機関が、患者の発生について届出を行う感染症

① 週単位報告

<p>【 小児科定点 】</p> <p>(1) RS ウイルス感染症 (2) 咽頭結膜熱 (3) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (4) 感染性胃腸炎 (5) 水痘 (6) 手足口病 (7) 伝染性紅斑 (8) 突発性発しん (9) 百日咳 (10) ヘルパンギーナ (11) 流行性耳下腺炎</p>
<p>【 インフルエンザ定点 】</p> <p>(1) インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)</p>
<p>【 眼科定点 】</p> <p>(1) 急性出血性結膜炎 (2) 流行性角結膜炎</p>
<p>【 基幹定点 】</p> <p>(1) 感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る) (2) クラミジア肺炎(オウム病を除く) (3) 細菌性髄膜炎(髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く) (4) マイコプラズマ肺炎 (5) 無菌性髄膜炎</p>

② 月単位報告

<p>【 性感染症定点 】</p> <p>(1) 性器クラミジア感染症 (2) 性器ヘルペスウイルス感染症 (3) 尖圭コンジローマ (4) 淋菌感染症</p>
<p>【 基幹定点 】</p> <p>(1) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 (2) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (3) 薬剤耐性緑膿菌感染症</p>

* 2015 年 1 月 21 日より追加

** 2015 年 1 月 21 日から二類感染症に変更

表2 全数把握感染症 月別患者発生状況

	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
一類感染症	エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
二類感染症	急性灰白髄炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	結核	371	22	26	22	30	30	35	34	39	35	41	39
	ジフテリア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中東呼吸器症候群*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三類感染症	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	コレラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	細菌性赤痢	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-
	腸管出血性大腸菌感染症	63	2	-	-	2	-	6	7	27	14	2	3
四類感染症	腸チフス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	パルチフス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	E型肝炎	4	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	1
	ウエストナイル熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	A型肝炎	9	-	2	-	2	2	-	-	-	-	-	1
	エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	オーストラリア熱	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	回帰熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	キヤサヌル森林熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Q熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	狂犬病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	コクシジオデス症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	サル痘	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	重症熱性血小板減少症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	腎臓出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭疽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	チクングニア熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ツツガムシ病	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	デング熱	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	東部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(鳥インフルエンザ(H5N1)を除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ニバウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	日本紅斑熱	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	日本脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ハンタウイルス肺炎候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	B型肝炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ブルセラ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	発疹チフス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ポツリヌス症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	マラリア	2	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-
	野兎病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ライム病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	類鼻疽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	レジオネラ症	27	3	1	2	2	-	5	3	1	5	2	1
	レプトスピラ症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ロッキーマウンテン紅斑熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	アメリカーナ赤痢	17	3	2	-	1	4	1	2	2	-	1	1
	ウイルス性肝炎(E・Aを除く)	9	1	1	1	-	1	-	-	3	-	-	-
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	34	1	5	4	2	6	4	2	2	-	3	1
	急性脳炎*	14	1	2	2	-	2	2	2	1	-	-	-
	クリプトスポリジウム症	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	
後天性免疫不全症候群	21	3	1	3	3	-	4	2	-	2	2	-	
ジエーラ症	4	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	1	
侵襲性インフルエンザ菌感染症	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
侵襲性肺炎球菌感染症	35	7	4	2	4	2	1	2	1	1	3	2	
水痘(入院例)	6	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	1	
先天性風しん症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
梅毒	25	-	-	3	1	4	-	2	2	1	2	7	
播種性クリプトコックス	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
破傷風	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
風しん	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
麻疹	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

*1 ウェストナイル脳炎, 西部ウマ脳炎, ダニ媒介脳炎, 東部ウマ脳炎, 日本脳炎, ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く

*2 2015年1月21日より, 中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MARSコロナウイルスであるものに限る。), 鳥インフルエンザ(H7N9)が指定感染症から全数把握感染症に変更。

表3 全数把握感染症 年齢別患者発生状況

	総数	0～9歳	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳～
一類感染症	エボラ出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	クリミア・コンゴ出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	南米出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
二類感染症	マールブルグ病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ラッサ熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三類感染症	急性灰白髄炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	結核	371	8	1	32	30	32	19	43	71	103
	重症急性呼吸器症候群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	中東呼吸器症候群*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
四類感染症	鳥インフルエンザ(H5N1)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	鳥インフルエンザ(H7N9)*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	コレラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	細菌性赤痢	2	1	—	1	—	—	—	—	—	—
	腸管出血性大腸菌感染症	63	17	10	6	7	6	1	3	6	3
	腸チフス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	バチラチフス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	E型肝炎	4	—	—	—	—	1	—	3	—	—
	ウエストナイル熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	A型肝炎	9	—	—	2	—	2	2	—	2	—
エキノコックス症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
黄熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
オウムムチフス	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—	
回帰熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
キヤサスル森林病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
Q熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
狂犬病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
コクシジオイデス症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
サル痘	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
重症熱性血小板減少症候群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
腎症候性出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
西部ウマ脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ダニ媒介脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
炭疽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
チングニア熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ツツガムシ病	1	—	—	—	—	—	1	—	—	—	
デング熱	2	—	—	1	1	—	—	—	—	—	
東部ウマ脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
鳥インフルエンザ(鳥インフルエンザ(H5N1)を除く)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ニバウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
日本紅斑熱	3	—	—	—	—	—	—	—	2	1	
日本脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ハンタウイルス肺症候群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
Bウイルス病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
鼻疽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ブルセララ症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ベネズエラウマ脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ヘンドラウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
発しんチフス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ボツリヌス症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
マラリア	2	—	—	—	2	—	—	—	—	—	
野兎病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ライム病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
リッサウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
リフトバレー熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
類鼻疽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
レジオネラ症	27	—	—	—	1	3	5	7	4	4	
レプトスピラ症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ロッキーマウンテン紅斑熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
五類感染症	アムニオニオチフス	17	—	—	1	3	4	4	4	1	—
	ウイルス性肝炎(E・Aを除く)	9	—	1	2	3	2	1	—	—	—
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	34	—	—	—	—	1	—	6	6	15
	急性脳炎*	14	12	—	1	1	—	—	—	—	—
	クリプトスポリジウム症	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2	—	—	—	—	—	—	1	1	—
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	—	—	—	—	—	—	1	1	—
	後天性免疫不全症候群	21	—	1	7	1	5	6	1	—	—
	ジニア症	4	—	—	—	1	—	1	2	—	—
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2	—	—	—	—	1	—	1	—	—
	侵襲性髄膜炎菌感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	侵襲性肺炎球菌感染症	35	6	—	—	2	6	1	4	10	2
	水痘(入院例)	6	1	3	—	—	—	—	—	—	2
	先天性風しん症候群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	梅毒	25	—	1	9	4	7	3	1	—	—
	播種性クリプトコックス症	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	破傷風	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
風しん	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
麻疹	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

*1 ウエストナイル脳炎, 西部ウマ脳炎, ダニ媒介脳炎, 東部ウマ脳炎, 日本脳炎, ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く

*2 2015年1月21日より, 中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MARSコロナウイルスであるものに限る。), 鳥インフルエンザ(H7N9)が指定感染症から全数把握感染症に変更。

表4 定点把握対象感染症の発生状況 定点あたり報告数, 週別 (小児科・インフルエンザ定点, 眼科定点, 基幹定点)

2015年

	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)
総数	307.67	23.31	10.76	59.39	344.67	18.65	89.26	12.24	14.54	0.50	24.09	14.70	0.42	24.75	0.40	1.80	8.00	0.40	8.60
1週	20.56	0.30	0.13	0.52	8.24	0.43	0.22	0.02	0.22	—	—	0.02	—	0.08	—	—	—	—	—
2週	42.99	0.83	0.11	1.91	8.39	1.44	0.15	0.04	0.44	—	—	0.20	0.08	0.42	—	—	—	—	—
3週	59.21	0.39	0.09	1.15	8.39	0.50	0.31	0.13	0.28	0.02	—	0.19	0.08	0.08	—	—	—	—	—
4週	58.98	0.48	0.15	1.74	8.56	0.48	0.13	0.13	0.39	—	—	0.15	0.08	0.33	—	—	—	—	—
5週	35.69	0.57	0.13	1.41	8.07	0.63	0.22	0.13	0.28	0.04	—	0.17	—	0.25	0.40	—	0.40	—	—
6週	21.14	0.56	0.13	1.50	7.11	0.43	0.37	0.06	0.24	—	—	0.11	—	0.08	—	—	—	—	—
7週	11.39	0.30	0.22	1.20	5.96	0.46	0.41	0.06	0.35	0.02	0.04	0.15	—	—	—	—	—	—	—
8週	7.70	0.26	0.28	1.91	6.48	0.48	0.26	0.07	0.39	—	0.02	0.22	0.08	—	—	—	—	—	—
9週	4.55	0.19	0.22	2.11	7.04	0.43	0.56	0.07	0.43	0.02	0.04	0.15	—	0.17	—	—	—	—	1.20
10週	3.85	0.06	0.09	1.76	8.02	0.48	0.69	0.06	0.28	0.02	0.02	0.33	—	0.25	—	—	—	—	0.20
11週	4.11	0.17	0.15	1.56	8.04	0.28	0.69	0.09	0.39	—	0.06	0.41	—	0.17	—	—	—	—	1.00
12週	6.18	0.07	0.19	1.37	8.52	0.41	0.30	0.06	0.39	0.02	0.02	0.24	—	0.08	—	—	—	—	0.40
13週	5.67	0.15	0.24	1.80	6.50	0.41	0.30	0.07	0.22	—	0.02	0.46	—	0.08	—	—	—	—	0.20
14週	5.18	0.07	0.15	1.04	7.63	0.52	0.43	0.19	0.37	—	—	0.43	—	0.33	—	—	—	—	0.60
15週	2.83	0.07	0.11	0.91	5.83	0.20	0.17	0.02	0.39	—	0.02	0.28	—	0.25	—	—	—	—	0.20
16週	3.81	0.09	0.07	0.80	6.35	0.50	0.35	0.07	0.37	—	—	0.20	—	0.58	—	—	—	—	0.20
17週	3.19	0.13	0.33	1.19	6.76	0.15	0.70	0.15	0.52	0.02	0.02	0.20	—	0.25	—	—	—	—	0.20
18週	2.89	0.07	0.28	1.24	7.85	0.22	0.74	0.19	0.44	0.02	0.02	0.30	0.08	0.25	—	—	—	—	0.20
19週	1.45	0.07	0.17	1.15	6.04	0.19	0.74	0.06	0.26	0.02	0.02	0.48	—	0.58	—	—	—	—	0.40
20週	0.96	0.02	0.26	1.22	6.24	0.31	0.94	0.11	0.48	0.02	0.15	0.33	—	0.67	—	—	—	—	—
21週	0.81	0.09	0.41	1.35	7.02	0.13	1.37	0.19	0.30	0.04	0.33	0.35	—	0.17	—	—	—	—	—
22週	0.55	0.06	0.41	2.11	7.72	0.19	1.63	0.19	0.39	—	0.24	0.30	—	0.25	—	—	—	—	0.20
23週	0.18	—	0.44	1.13	6.07	0.39	1.80	0.13	0.41	0.06	0.41	0.24	—	0.25	—	—	—	—	0.40
24週	0.10	0.02	0.46	1.61	6.63	0.07	2.33	0.35	0.44	—	0.37	0.44	—	0.33	—	0.20	—	—	—
25週	0.01	—	0.39	1.13	6.31	0.13	3.54	0.33	0.59	0.06	0.93	0.43	—	0.33	—	—	—	—	—
26週	—	0.04	0.33	1.30	6.22	0.15	4.59	0.39	0.43	—	1.41	0.50	—	0.33	—	—	0.60	0.20	0.20
27週	0.02	0.06	0.22	1.26	6.22	0.31	5.39	0.28	0.41	0.02	1.72	0.59	—	0.75	—	—	0.40	—	—
28週	0.02	0.09	0.26	0.83	5.26	0.22	5.13	0.46	0.28	—	2.52	0.46	—	0.17	—	—	0.20	—	—
29週	—	0.04	0.19	0.74	5.06	0.30	7.87	0.19	0.30	—	3.06	0.69	—	0.42	—	—	0.40	—	—
30週	0.02	0.04	0.20	0.65	4.87	0.15	6.11	0.26	0.39	—	2.13	0.56	—	0.42	—	0.40	0.20	—	0.20
31週	—	0.02	0.17	0.67	4.78	0.11	7.26	0.22	0.46	0.07	2.81	0.98	—	0.25	—	0.20	0.20	—	—
32週	0.01	0.09	0.17	0.59	4.28	0.19	6.44	0.26	0.59	—	2.07	0.48	—	0.75	—	—	—	—	—
33週	—	0.11	0.13	0.30	3.67	0.20	3.59	0.13	0.39	0.02	1.59	0.85	—	0.75	—	—	0.20	—	—
34週	—	0.26	0.33	0.80	4.72	0.09	4.15	0.37	0.52	0.02	1.35	0.50	—	2.08	—	—	—	—	—
35週	0.01	0.39	0.28	0.52	4.39	0.22	4.50	0.31	0.48	—	0.98	0.74	—	1.17	—	0.20	—	—	—
36週	—	0.67	0.11	0.63	4.50	0.22	3.50	0.31	0.31	—	0.74	0.57	—	0.83	—	—	—	—	—
37週	—	0.72	0.24	0.44	4.22	0.41	3.28	0.46	0.41	—	0.70	0.41	—	0.83	—	—	0.20	—	—
38週	0.02	0.78	0.17	0.57	4.44	0.17	2.28	0.24	0.31	0.02	0.30	0.59	—	0.83	—	—	0.80	—	—
39週	0.02	0.69	0.06	0.41	3.67	0.19	1.56	0.26	0.22	—	0.13	0.72	—	0.25	—	—	0.40	—	—
40週	0.02	0.63	0.06	0.65	3.87	0.19	1.46	0.30	0.44	0.02	0.07	0.67	—	0.92	—	—	0.20	—	—
41週	0.02	0.67	0.09	0.37	4.04	0.17	0.91	0.26	0.33	—	0.04	0.61	—	0.50	—	—	0.20	0.20	—
42週	—	0.63	0.22	0.65	3.87	0.11	0.44	0.28	0.37	—	0.04	0.61	—	0.50	—	—	—	—	0.20
43週	0.01	0.74	0.13	0.78	4.44	0.30	0.37	0.39	0.28	—	0.06	1.06	—	0.67	—	—	0.40	—	—
44週	0.02	0.96	0.13	0.80	5.70	0.37	0.13	0.24	0.28	—	0.02	0.59	—	0.42	—	—	0.20	—	—
45週	0.02	0.80	0.09	0.76	5.00	0.30	0.13	0.31	0.35	0.02	—	0.63	—	0.50	—	—	—	—	0.20
46週	0.14	0.93	0.17	0.96	4.96	0.46	0.19	0.35	0.33	0.04	0.07	0.69	0.17	0.33	—	0.20	—	—	—
47週	0.15	0.93	0.20	1.06	6.15	0.59	0.17	0.43	0.41	—	0.02	0.85	—	1.25	—	0.20	—	—	0.40
48週	0.24	1.15	0.13	1.43	6.44	0.39	0.13	0.37	0.39	0.02	0.02	0.74	—	0.33	—	—	—	—	—
49週	0.33	1.19	0.19	1.98	9.06	0.69	0.13	0.33	0.56	0.02	—	0.96	—	1.67	—	—	0.20	—	0.20
50週	0.55	1.48	0.28	1.44	11.46	0.46	0.09	0.67	0.43	0.02	—	1.20	—	0.58	—	0.20	0.80	—	—
51週	0.52	1.91	0.15	1.87	12.81	0.65	0.06	0.52	0.37	0.02	0.02	1.30	—	0.08	—	0.20	1.40	—	1.40
52週	0.85	1.39	0.35	1.48	11.91	0.74	0.07	0.67	0.13	—	0.02	1.04	—	0.92	—	—	0.60	—	0.20
53週	0.65	0.93	0.11	0.67	8.87	0.46	—	0.04	0.09	—	—	0.83	—	—	—	—	—	—	0.20

表5 月報告 定点把握感染症（性感染症定点、基幹定点） 月別、定点あたり報告数

2015年

疾患名		総計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
性感染症定点	性器クラミジア感染症	計	22.18	1.65	1.76	1.82	1.53	1.94	2.24	1.53	2.24	1.88	2.12	1.41	2.06
		男	5.35	0.59	0.41	0.41	0.35	0.47	0.47	0.29	0.76	0.35	0.41	0.35	0.47
		女	16.82	1.06	1.35	1.41	1.18	1.47	1.76	1.24	1.47	1.53	1.71	1.06	1.59
	性器ヘルペスウイルス感染症	計	4.65	0.65	0.41	0.65	0.29	0.47	0.53	0.53	0.18	0.41	0.18	0.24	0.12
		男	0.12	—	—	0.06	—	0.06	—	—	—	—	—	—	—
		女	4.53	0.65	0.41	0.59	0.29	0.41	0.53	0.53	0.18	0.41	0.18	0.24	0.12
	尖圭コンジローマ	計	4.76	0.47	0.41	0.41	0.47	0.18	0.41	0.41	0.29	0.41	0.29	0.59	0.41
		男	3.41	0.35	0.29	0.29	0.35	0.18	0.18	0.29	0.24	0.24	0.24	0.47	0.29
		女	1.35	0.12	0.12	0.12	0.12	—	0.24	0.12	0.06	0.18	0.06	0.12	0.12
	淋菌感染症	計	6.00	0.94	0.65	0.71	0.29	0.35	0.35	0.41	0.65	0.41	0.18	0.47	0.59
		男	3.12	0.59	0.29	0.24	0.06	0.24	0.12	0.18	0.41	0.29	0.18	0.29	0.24
		女	2.88	0.35	0.35	0.47	0.24	0.12	0.24	0.24	0.24	0.12	—	0.18	0.35
基幹定点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	計	26.20	3.20	1.00	2.80	3.20	1.40	2.60	2.00	1.60	1.60	2.40	1.40	3.00
		男	18.00	2.20	0.20	2.00	2.60	1.00	1.40	1.20	1.40	1.40	2.00	1.00	1.60
		女	8.20	1.00	0.80	0.80	0.60	0.40	1.20	0.80	0.20	0.20	0.40	0.40	1.40
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	計	0.20	—	—	—	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—
		男	0.20	—	—	—	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—
		女	0.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	薬剤耐性緑膿菌感染症	計	1.40	0.20	—	—	—	0.20	0.20	0.20	0.40	—	—	0.20	—
		男	1.20	0.20	—	—	—	0.20	0.20	0.20	0.20	—	—	0.20	—
		女	0.20	—	—	—	—	—	—	—	0.20	—	—	—	—

表6 月報告 定点把握感染症（性感染症定点） 年齢階級別患者報告数

2015年

疾患名		0歳	1歳～	5歳～	10歳～	15歳～	20歳～	25歳～	30歳～	35歳～	40歳～	45歳～	50歳～	55歳～	60歳～	65歳～	70歳～	総計
性器クラミジア感染症	計	—	—	—	—	54	107	67	74	39	15	9	5	2	3	—	2	377
	男	—	—	—	—	7	22	15	16	10	5	6	3	2	3	—	—	91
	女	—	—	—	—	47	85	52	58	29	10	3	2	—	—	—	—	286
性器ヘルペスウイルス感染症	計	—	1	—	—	4	9	16	4	13	3	3	3	4	1	3	15	79
	男	—	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
	女	—	—	—	—	4	8	16	4	13	3	3	3	4	1	3	15	77
尖圭コンジローマ	計	—	—	—	—	4	9	7	32	4	7	8	2	4	—	—	4	81
	男	—	—	—	—	3	3	—	28	4	4	8	2	3	—	—	3	58
	女	—	—	—	—	1	6	7	4	—	3	—	—	1	—	—	1	23
淋菌感染症	計	—	—	—	—	15	23	11	21	14	10	3	1	—	2	—	2	102
	男	—	—	—	—	8	9	7	12	7	5	1	—	—	2	—	2	53
	女	—	—	—	—	7	14	4	9	7	5	2	1	—	—	—	—	49

表7 月報告 定点把握感染症（基幹定点） 年齢階級別患者報告数

2015年

疾患名	0歳	1歳～	5歳～	10歳～	15歳～	20歳～	25歳～	30歳～	35歳～	40歳～	45歳～	50歳～	55歳～	60歳～	65歳～	70歳～	総計
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3	4	2	—	1	2	1	4	3	3	—	1	5	7	11	84	131
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1
薬剤耐性緑膿菌感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7	7